

令和元年度 豊中市総合計画審議会第一部会 第2回会議 議事要旨

- 日時 令和元年(2019年)10月31日(木)18時～19時45分
- 場所 第二庁舎3階大会議室
- 出席者 久部会長、大野委員、宗前委員、濱元委員、山田委員、吉原委員
計6名
- 事務局 都市経営部経営計画課：榎本、寺田、坂本、田中、島、上田
- 案件 1. 前回の振り返り
2. 2019年度(2018年度実施分)政策評価結果の施策シートについて
3. その他
- 資料 資料1 2019年度(2018年度実施分)政策評価結果
資料2 令和元年度第1回豊中市総合計画審議会第一部会の主な意見
参考1 第4次豊中市総合計画(本編)
参考2 第4次豊中市総合計画(概要版)
参考3 令和元年度第1回豊中市総合計画審議会第二部会の主な意見

会議録 下記のとおり

1. 開 会

(開会)

事務局：

- ・ (成立要件の確認)

事務局：

(配布資料確認)

2. 案件1「前回の振り返り」

部会長：

- ・ 「前回の振り返り」について事務局からお願いします。

事務局：

- ・ (前回の第一部会で出た意見をまとめた資料2をもとに説明)
- ・ (前回の第一部会で出た質問について回答)

部会長：

- ・ ただいまの説明について、ご質問・ご意見はございませんか。

- ・ それでは、案件 2「2019 年度(2018 年度実施分)政策評価結果の施策シートについて」事務局から説明してください。

3. 案件 2「2019 年度(2018 年度実施分)政策評価結果の施策シートについて」

事務局：

- ・ (本日の部会の進め方の説明)

部会長：

- ・ ただいま事務局から説明がありましたように、今回は章ごとに追加のご意見をいただきたいと思います。
- ・ それでは第 1 章「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」の 3 つの施策シートの評価につきまして、案件 1 の事務局からの説明以外で追加があればお願いします。

(第 1 章「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」のシート(P15～17)について)

事務局：

- ・ (シートの P D C A が該当する部分を説明)

委員：

- ・ 第 2 章-3 や第 2 章-4 のようなよく書けているシートは「こういう方向にむけてやっていきます。そしてここまでできました。まだこんな課題が残っています。総じて P D C A はうまくまわっているので A や B と評価しています。」と書いています。それと比べると、第 1 章のシートは、B と書いていますが、施策の方向性シートと照らし合わせると課題はあるかもしれませんが、総じてうまくまわっているなら A とつけてもいいと思います。
- ・ 昨年の審議会でも、なぜ A とか B の評価をつけるのかと議論になったときに、なんとなくつけるのではなく、「チャレンジングな目標に対して苦勞しているので C ですが、さらに頑張ります」というような書き方の方がいいという話が出ていました。総じて P D C A がうまくまわっているなら A と書いていいと思います。
- ・ 根拠が薄弱だというご意見もありますが、方向性シートと照らし合わせながら見ていくと、第 1 章-1「子育て支援の充実」は一定うまくまわっている印象を受けますので、B とつけない方がいいように思いました。P D C A がうまくまわっているなら A とつけてもいいと思います。

部会長：

- ・ 参考 3 の第二部会のご意見でもありましたが、B とつけるなら足りない何かを明確にする必要があると思います。そうするとなぜ B なのかわかります。概ねうまくいっているなら A をつけてもいいということを庁内に周知していただければと思います。
- ・ 施策の方向性シートがほとんど B になっているので、それに引きずられて施策シートも B になっているのかもしれませんが、まず施策の方向性シートで A か B も見極めをしていただいて、全体をとりまとめる施策シートで A か B をはっきりさせていただくと、よりメリハリがつい

て根拠もはっきりしてくると思います。

委員：

- ・ 総合計画の冊子と政策評価結果の冊子を見比べてみますと、総合計画の目的で書いていることの一部を昨年度行ったことがわかります。一部行ったことの結果と見方で、政策評価結果に書いてあることを考えるとAの評価になるものも多かったです。しかし、それぞれのシートを見てみると、最後のまとめの部分で、「今後さらなる充実や取組みの必要があるからBです」となっています。章に対して全体の活動の評価をすると全部Bになってしまいます。しかしシートに書いている個別の中身からするとAと判断できるものも結構あると思います。そのあたりの区別が不明瞭になっていて残念だと思います。

部会長：

- ・ 先ほどの委員のご指摘は、総合計画の施策の方向性の目標の書き方に原因があると思います。「～を進めます」というように施策が進めばOKという話になっています。本来はアウトカムの方が必要です。例えば子育て環境がどうなっているのか、子どもがどうなっているのかを書いていって、それが目標になると評価も変わってくると思います。今の総合計画はその前段階の「仕組みづくりを重視させます、支援します」となっており、市役所が頑張ればそれでOKになっているので、次期の総合計画を見直しされるときは、アウトカムの目標を追いかけるような作りにしていただければと思います。

委員：

- ・ 第1章-2と第1章-3のシートでは、学校の統廃合や青少年の家いぶきと少年文化館機能の統合は今後動きがあるもので、現在は計画段階だと思いますので、評価をAにするのは難しいと思います。

委員：

- ・ それは見通しがつきにくいという意味ですか。

委員：

- ・ そうです。計画がうまく進んでいけばということかもしれませんが、統廃合ということはどういう結果が出るのか見通しが立たない部分が多くあると思いますので、現時点ではB評価になるように思いました。

部会長：

- ・ 現在それぞれの分野で喫緊の課題になっていることや世間に注目されていること、近年の施策を取り巻く環境の中で、どういうところが柱になっているのかをしっかりとおさえて書いていただくのがいいと思います。なかなか柱が見えてこないのが第1章全体に言えることだと思います。例えば、来年度以降小学校から順次学習指導要領が大きく変わり、いわゆる生きる力をさらにつけていこうとしています。それを受けているのが、総合計画ではP47の主な取組みの1つ目「確かな学力と体力の向上、豊かな人間性の育成」だと思います。しかし

施策シート及び施策の方向性シートには、これにつながる記述が見えてきません。さらに言えば、「子どもたちの主体的な学びを育む」と書いてありますが、これがどのように育まれたかも文章からは読み取れません。

- 大学でもアクティブラーニングを求められています。どれだけの科目でアクティブラーニングが取り上げられているのかを調査することはできますが、アクティブラーニングをすることによって学生たちの主体的な学びがどれだけついているのかをエビデンスを用いて説明することには苦慮しています。市でも同じような状況に陥っていると思います。ここは、これからの学習指導要領の改訂ですごく重要なポイントですので、今年度以降はどれだけ成果が出ているかを追いかけていってほしいと思います。
- これは1つの事例ですので、これからの教育でどれが柱になっていくかは、共有をしておいた方がいいと思います。お互いに評価を通じて共有していくことが重要になってくると思います。
- 同様にコミュニティスクールについても文章で書いていますが、モデル的に進めることは読み取れます。しかし豊中市全体で、コミュニティスクールをどう進めていくのかは書かれていませんが、柱としては知りたい部分です。今回の学習指導要領の改訂でも、将来の子どもたちの暮らし方・働き方が大きく変わっていくことを、社会全体で共有していかないといけません。だから社会に開かれたカリキュラムを作っていく。そしてそれを議論して学校運営をするためにコミュニティスクールを進めていくというストーリーが学習指導要領の改訂では書かれているはずなので、そういうことが豊中市の各小中学校でどのような形で進むのかという状況も次回以降の評価ではぜひ書いてほしいと思います。
- この委員会で知りたいことを事前に事務局に申し上げることも効率的に評価をする上では必要なことかもしれませんので、委員の皆さまからもご意見をいただければと思います。
- 先ほど委員からご指摘いただいたように、総合計画を再度確認しながら評価をしていくという習慣づけを、これからしていただければと思います。

委員：

- P16のシートですが、2つ目の○に「(仮称)庄内さくら学園の開校にむけて」とありますが、施策の方向性シートではどこに位置づけられていますか。

事務局：

- P39のシートの影響度の大きかった事業に記述がありますが、指標には記述がありません。

委員：

- 第1章、第2章、第5章すべてに言えることですが、影響度の大きかった事業に書いている内容が指標に全く活かされていないことはどうなのかと思いました。全く一緒のものもありますが、全く違うのは見えていてわかりにくいと思いました。

部会長：

- ・ 先ほどの委員のご指摘は、影響度の大きかった事業と書いているけれど、指標がないのでどう影響度が大きかったかがわからないということです。これは施策シート及び施策の方向性シートに対して重要だと思った事業なので、これがすべてのかきぶりに反映できていないといけません。評価についてもこういうふうに影響度が大きかった、その根拠データとして指標を示していただくと読み手側もわかりやすいと思います。

委員：

- ・ P38 のシートでも同様のことがいえると思います。

委員：

- ・ 指標は基本的に5年間同じものを使うのでしょうか。

事務局：

- ・ 指標は必要に応じて毎年度見直すことができます。

委員：

- ・ 先ほどの委員のご指摘されたところでいうと、影響度の大きかった事業を言語化すると、「私立認定こども園に経済的なサポートをしました。その結果として市内の認定こども園に通う親は大変助かりました、あるいは子どもたちがいい環境で学ぶことができました。それを維持するために指導監査に何度か入りました。」という感じになると思われます。うまくいっているかどうかのエビデンスとして、指導監査を行い、それによって是正された数という指標があってもいいと思います。不名誉な数字かもしれませんが、それによって状況が良くなるのであれば意味はあると思います。そう考えるとP38の指標はあまりよくないと思います。
- ・ 影響度の大きかった事業がこれだとしたら、活動としてどのくらいうまくいっているのかをサポートする数字じゃないと指標としてはよくないのかもしれない。

部会長：

- ・ 大学の評価では現在第二段階に入ったと言われています。第一段階はP D C Aがまわる仕組みを整えているかをチェックすることです。第二段階は実態としてP D C Aがまわっているかを調査することです。そうすると、先ほどの委員が仰ったように、C・Aの段階でこういう評価をして、こういうアクションをしましたということを証明しないといけません。
- ・ そう考えると、監査が入ったけれども、そこでどういう監査がなされていて、それに対してこういうような改善がなされましたというレベルまでいかないとP D C Aがまわったといえないということになります。これは定性評価でいいわけですが。回数や指摘回数より具体的なエピソードの方が読み手側はわかりやすいと思います。

委員：

- ・ 先ほど私が指摘した部分は、例えば一致しているところが P79、反対に一致していないところは P85 です。P85 のシートでは「地方分権・都市間連携調整事務」の指標の方がわかりやすいのではないかと思います。同様に P84 では影響度の大きかった事業と指標が全く一致していないのでいかなものかと思いました。

委員：

- ・ 仰るとおりだと思います。

委員：

- ・ 総合計画の P47 の主な取組みの「③共に学ぶ教育の推進」は豊中市の教育の大きな特徴だと思います。障害がある子どももいない子どもも共に学んでいます。今日の午前中に豊中市内のある小学校の運動会を見学させていただきましたが、どんな障害の子どももいろんな種目の競技を一緒に行っていました。しかしこれをどう評価するかは非常に難しいと思いました。実際に見るとよさがわかりますが、エビデンスをもって評価することは難しいと思います。評価シートを見ていても、指標名などどこにも出てきません。せっかくいい取組みをしているので、豊中市の大事にしていることとして評価シートに書いてほしいと思いました。

部会長：

- ・ P35 の施策の方向性シートでは「産前・産後の切れめない支援を進めます」とありますが、内容を見てみるとそれぞれの時期に何をしているのかは書いてありますが、「切れめない支援」をしているかはわかりません。妊娠期・出産期・子育て期に何をしているかはわかりませんが、それが切れめないと言われると何を見たら切れめないという評価になるのかを知りたいところです。例えば、茨木市では妊娠期から子育て期まで一貫して支援を受けられる総合センターを新しく作ろうとしています。また八尾市では一人の保健師さんがずっと同じ女性について支援をしています。ワンストップサービスで施設としての切れめない支援をめざすのか、あるいは人の切れめがない支援をめざすのか、豊中市は何をもって切れめない支援を充実させようとしているのかを、まず教えていただいて、それがちゃんとまわっているかを知りたいと思いますので、次年度以降のシートに書いていただきたいと思います。

委員：

- ・ P35 のシートの指標と総合計画を照らし合わせてみると、1つ目が①、2つ目が③、3つ目が②、4つ目が③と一応は補えていると思います。しかし、「切れめない」といったときに担当者同士で情報の引継ぎができているとかが重要になります。先ほどの部会長のお話でも、八尾市のようなシステムだと同一人物が担任制のように行っているのが、切れめがないことは明らかです。ワンストップサービスだと施設として切れめがないという感じがして、市民としてはわかりやすいですし、サービスも一体として展開していると思われます。評価シートを書く人たちが、総合計画を読んで「産前・産後の切れめない支援を進めます」ができていのかを判断するときに「できている」と考えた場合、それは仕事の実感だと思います。実感としてできていると感じることをどのようにして客観的に証明していくかでエビデンスが必

要であり、「切れめない」がどういうことかを考え、私たちはこういうふうな考えで「切れめない」を実行していますと対外的にも言えれば、影響度の大きかった事業が着実に進んでいる証拠として指標を出して、結果的に施策シートに書いていることとの齟齬がない内容になるはずです。

- ・ つまり総合計画に書かれていることに対してどう思うかの実感を大事にして、指標に落とし込んでいくようにしてほしいと思います。

部会長：

- ・ 大学の評価で考えた場合に、私は評価する側にまわることもあり、「それぞれの大学は、大学なりの目標をもって動いているので、それ以上のことを求めてはいけませんし、私はこう思うというような自分の教育観・価値観を持ち込んで評価をしてはいけません」ということをいつも言われます。評価される側がどういう目標をもって動いているのかを評価者も知りたいわけですが。私が先ほど八尾市と茨木市の例を出したのは、こういう切れめないやり方もありますが、豊中市が考える「切れめない」はどういうことかをまず教えていただいて、それがちゃんとできているかを知りたいわけですが。例えば「産前はこうしています。産後はこうしています。子育て期はこうしています。これが連続していることを切れめないと呼んでいる」と教えていただければ、そういう基準で判断していると我々も納得できます。ですので、その部分をまず担当課には教えていただきたいと思います。

委員：

- ・ 総合計画のP45を見ていますと、「安心して子育てができるよう支援します」の主な取組みが「①子育てと仕事の両立の推進」は保育所や一時保育で測ろうとしていて、「②ひとり親家庭への支援」はひとり親への医療費助成等の支援で測ろうとしています。この内容が施策の方向性シートの影響度の大きかった事業・指標に結びついていくと思いますが、そう考えると総合計画の表現がもう少しわかりやすくなっていると評価シートも作成しやすいように思いました。
- ・ P36のシートの今後の方針で書いている内容は、次年度の目標になり、それが測れるような指標を設定するという認識でいいですか。例えば、2つ目の○に「子ども医療費助成について、対象年齢を拡大します」とありますが、これは対象年齢の拡大が次年度の成果になると思います。

部会長：

- ・ PDCAがまわるということを考えると、ここに書いているActionの内容は次年度のPになるはずですが。先ほどの委員が仰るように、そこを追いかけないとActionで受けたものが今年度きちんとまわっているかの評価ができません。今回のシートできちんとActionを書いて、それを今年度追いかけてほしいというご指摘だと思います。
- ・ 2018年度実施分の評価に書いてある今後の方針は、2019年度に実施しているはずなので、それを追いかけて2019年度の評価の時に書く必要があると思います。

事務局：

- ・ 今ご指摘にありました「子ども医療費助成」については助成の対象を令和元年度 11 月から 18 歳まで拡大することになっていますので、次の評価シートの成果の部分に出てくると思います。全てが指標で表せるものではないので、その場合は成果で表現するようにしたいと思います。

部会長：

- ・ 大学の評価を見ていると、毎年同じ課題が課題のまま残っているケースも見受けられます。課題のまま残っていることは反省すべきところですが、反省することではないといけない気持ちにもなります。その意味では課題をきちんと書いておくことも重要だと思います。同じことが繰り返し残っていることはよくないですので、各担当課でも今後の方針が次年度の書きぶりにどう反映できているかを重要視して考えてほしいと思います。
- ・ それでは第 2 章に移ります。

(第 2 章「安全に安心して暮らせるまちづくり」のシート(P18～21)について)

委員：

- ・ 先ほどから申し上げておきますとおり、評価が B なら B でいいですが、無難だから B にするというはやめてほしいと思います。PDCA がうまくまわっているなら A をつけてほしいですし、B をつけるなら何が課題かを突っ込まれても、こういう根拠があるので B にしていると答えられるように書いてほしいと思います。

委員：

- ・ 第 2 章の今後の方針の部分を見ますと、きちんと書けているように思いました。

委員：

- ・ P44 のシートの成果の 1 つ目の○で「連携の意識づくりにつなげることができました」とありますが、具体的でなくわかりにくいと思いました。これに対応して問題点・今後想定される事項の「様々な課題が確認できました」もわかりにくくなっています。一方で、昨年の大阪北部地震の対応に追われて、当初計画していた様々な計画が滞ったとも聞いています。これは仕方のないことだと思いますので、地震のため計画していたことが遅れたというふうに書いてもいいと思いました。

部会長：

- ・ おそらく課題が色々あったため、このような書き方になったのだと思いますが、ご指摘があったようにもう少し具体例が書かれていると、読み手側もわかりやすいと思います。
- ・ 総合計画を改めて見てみますと、第 2 章-1 の「自立生活支援の充実」は項目が多いですし、これにぶら下がっている事業の数も膨大になると思います。そこが書きづらい原因になっているように思います。次回の基本計画の作成のときには整理していただいた方がいいと思います。逆によく書けている第 2 章-3 の「消防・救急救命体制の充実」では専門分野が特化

しているのですっきりしています。消防局だけで書いているので、内容もわかりやすいものになっていると思います。

- ・ それでは第5章に移ります。

(第5章「施策推進に向けた取組み」のシート(P30～31)について)

委員：

- ・ P82のシートの今後の方針の2つ目の○で「RPAやAIといったICTの活用や、新たな手法(ソーシャルインパクトボンド、クラウドファンディング、Park-PFIなど)による民間資源の活用を進めます」とありますが、これが次年度のPになると考えると大変なことだと思います。1つ1つをとってすぐにはできないことではないと思います。

部会長：

- ・ 今後の方針なので、今年度に限ったことではないと思います。ただ導入に向けて、今年度何か検討はされる必要があると思います。

事務局：

- ・ ここで書いていることは全て今年度動いています。

部会長：

- ・ 先日他市町村の会議に出席した時には、会議の発言内容をコンピューターで文字おこしをする取組みをされていました。

事務局：

- ・ 現在どんな分野でAIまたはAI-OCRやRPAが導入できるか検証を行っています。

委員：

- ・ そういう意味では今後の方針に書かれていることは根拠があるということですね。

部会長：

- ・ 先ほどのSNSのところ、P78の指標に「フォロワー数」がありますが、人数のフォロワー数はあまり意味がないと思います。それより例えばツイッターアクティビティと呼ばれる、どれくらいの人が見てくれたか、反応してくれたかというので評価したほうが良いと思いました。
- ・ 総合計画のP96には人材育成について書かれていますが、私はとても興味をもっています。評価シートにはあまり書いていませんが、機械に任せるとは別に職員の質を上げていくこと、あるいはモチベーションを上げていくことが重要な時代になってきているので、人材育成が効果的にまわっているかについて書いていただきたいと思います。どうしてもこの分野はお金や仕組みのことでありがちですが、これからの世の中は人の問題も重要だと思います。

- ・ 豊中市には人材育成についてのスキル・ノウハウをもっている方が何人もいらっしゃると思いますので、うまく人を育てていくことも行財政運営の中では重要なことだと思います。

事務局：

- ・ 今年度人材育成の戦略方針を作成しています。これまでも育成方針はありましたが、もう少し戦略的にどうしていくかを示すように考えています。人材育成については、どう評価していくか、どう指標で見せていくのかが非常に難しいと感じています。

部会長：

- ・ 例えば職員アンケートをやってみるとか、各階層の座談会で、どういうモチベーションをもっているのか、どういう課題を職場で感じているのかをワークショップ形式で聞いてもいいと思います。やり方によって評価手法は考えられると思います。職員アンケートでも、研修直後だけでなく事後のアンケートをとるなど緻密に行っていけば、評価できると思います。

委員：

- ・ 「協働」という単語がまちづくりでは重要になってきていると思いますので、地域の人の人材育成がどうなっているのかも興味があります。総合計画の P95 の(4)の②では「地域活動の担い手の発掘・育成支援」がありますので、どういうふうに進めていくのか気になります。

部会長：

- ・ 総合計画の P95 の(4)の施策の方向性は「多様な人たちが関わる地域自治を推進します」と書いてあります。この形容詞は非常に重要で「多様な人たちが関わる」と書いているので、従来の担い手だけでなく、様々な方が地域自治を担っていくという宣言をここでしています。それがわかる指標あるいは評価にしていただかないといけません。若い人や事業者やNPOなどが地域の活動にちゃんと入れることをめざしていて、そのために地域自治組織を作っているはずです。その地域自治組織に入っている団体の顔ぶれが多様になっているかを追いかけると、これが達成できているかわかってくると思います。
- ・ 大阪市では、すでにすべての小学校区で地域自治協議会を設立していて、毎年の評価の中で「団体構成のリスト」があって、今までの地域活動団体以外が入っているかをすべての協議会に書いてもらうようにしています。そうすると従来型の地域自治組織でまわしているところもすぐにわかります。

事務局：

- ・ 豊中市では地域課題を解決できる人材育成を目的とした「地域創生塾」を立ち上げています。塾生は 20 名程度です。いろんな講師の方に来ていただいて、まちづくりの課題などについて事例紹介やワーキングをして、自分たちでまちづくりの課題を見つけていくことを 1 年間の講座で行っています。今年で 3 年目を迎えて、毎年卒業生の中には自分たちで事業を作ったり、ボランティア活動をしたりして次につなげていってくれています。そういったことを指標として示していけたらいいと思いました。

委員：

- ・ そういう活動を評価シートに書いていただいて、それを市民が見たら意欲をもって参加してみようということにつながると思います。

部会長：

- ・ 尼崎市では、市民に対するシティズンシップ教育を重点化する動きがあります。生涯学習の大きな柱として、地域のため、社会のために動ける人を育成することを掲げています。見せ方としても「生涯・学習」と区切ることで、生涯学び続けてくださいということを示して、地区の公民館が拠点となっています。その職員がどういう講座を企画していくかということも考える一方で、企画するメンバーが地域の協働のパートナーになって、学習と協働が同時に進行していく仕組みを充実させています。そういう意味では政策推進として「地域創生塾」をするのではなく、生涯学習として様々な講座の中で地域の人材育成をしていくこともできると思います。豊中市は公民館活動を重点化してきている特徴があるので、その柱の中に地域活動につながるような、あるいは社会課題に自ら意見して活動につなげられるような講座をどんどん増やしていただくといいと思います。そういう意味では、ここは市民協働部だけでなく教育委員会と連携して進めると、より充実させることができると思います。
- ・ 最後に全体を振り返って言い足りないことはございませんか。
- ・ 政策評価のシートについて、審議会の求め方がまずかったかと思う部分があります。施策シートの真ん中に総合評価の理由を書いてもらうようにしていますが、この書きぶりだとPDCAを書きづらくしてしまったのかもしれないかもしれません。最後に「だから評価はAとしました」と書いていますが、本来はCheckの後に評価がきて、その次にActionが書かれていた方がよかったのかもしれないと思いました。「今年度このようなことをしました。その成果・課題としてこういうものになりました。だから評価はAです。それを受けて今後のこうします」という二段構えで書いた方がよかったのかもしれないと思いました。今回の審議結果もふまえて、施策シートのフォーマットもさわった方がいいのかもしれないと思いました。
- ・ 各部局からはこのシートについて書きにくいといったヒアリングはしていますか。

事務局：

- ・ ワークショップの時にどのようにまとめるのかといったご意見はいただいています。そこで事務局として書き方のマニュアルを作成しましたが、そのマニュアルが現在の書き方になっていたの、先ほどのご指摘につながったように思います。

部会長：

- ・ 総合評価の理由を求めているのはいいのですが、その中でさらにPDCAを求めているのでズレが生じているように思いましたので、今年度の評価をするときには考える必要があると思います。
- ・ 各部局からの声も本当はいただきたいです。審議会も一緒に悩んで、アドバイスできるところはして、よりよいものにしていきたいと思います。お互いに悩みながら一緒によりよくし

ていく姿勢がもてればと思いますので、来年以降はその辺りの本音も教えていただければと思います。

- ・ それでは本日の意見もふまえて、事務局でまとめていただければと思います。

4. 案件3「その他」

事務局：

- ・ 連絡事項を1点説明します。
- ・ 次回の総合計画審議会全体会は11月15日(金)18時から、場所は第二庁舎3階大会議室になります。

部会長：

- ・ 第2回豊中市総合計画審議会第一部会をこれで閉会します。

以上